

♪～大豆多収の鍵はマメな雑草・病害虫防除管理です～♪

両沼豆づくり情報 令和4年度 第2号

(令和4年7月8日)

発行：会津農林事務所会津坂下農業普及所（電話0242-83-2112）

〃 金山普及所（電話0241-54-2801）

J A会津よつば 各営農経済センター



○7月の栽培管理のポイント

- ・中耕・培土で、除草、生育促進、排水改善や倒伏防止を行いましょう。
- ・追肥は最終培土前に行い、株元に土を寄せて施肥の効果を向上しましょう。
- ・雑草や害虫の防除を行い、健全な生育を確保しましょう。

1 大豆の生育概況

管内の大豆の播種作業は5月末から6月中旬に行われ、天候に恵まれ終了しました。

播種期間中の気温は平年並から平年より低く推移しましたが、降雨は5月下旬より周期的にあったため、出芽は良好でした。

現在、播種の早いところで、本葉4葉期前後となっています。イネ科やタデ科の雑草が目立つほ場もありますので、多発しているほ場では、中耕培土または除草剤の散布を早めに行いましょう。

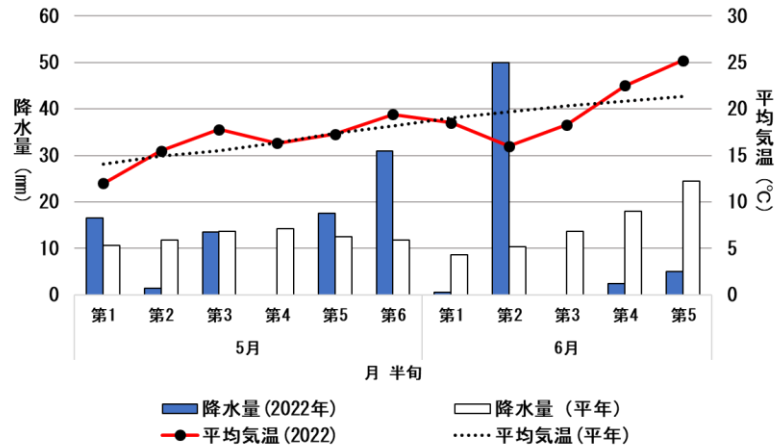


図1 5～6月の気温と降水量の推移
(2022年 アメダス若松)

2 当面の栽培管理

(1) 中耕・培土

中耕は、除草と作土の膨軟化による生育促進を目的に、培土は、不定根の発生促進、ほ場の排水、倒伏防止を目的に行います。中耕・培土の効果は、雨が多く土壌が過湿気味の場合や土壌が重粘で水はけが悪い場合に高くなります。また、中耕・培土は2回を標準に行います。

① 第1回目中耕・培土

1回目は、土壌処理除草剤の残効が切れる直前、発芽後20日頃の大豆3葉期を目安に子葉から初生葉が隠れる程度に浅く培土します。

② 第2回目中耕・培土

2回目は、5葉期頃に行い、第1本葉の節が隠れる程度まで培土します。培土は、不定根が発生してくる時期にしてこそ効果が大きく、あまり遅い時期の培土はむしろ断根によるマイナス影響の恐れがあります。このため、遅くとも開花の10日前までには終わらせましょう。

コンバイン収穫の場合は、汚粒発生防止のため、培土高ができるだけ一定となるよう作業を行います。また、耕耘同時畝立て播種、小畦立て播種栽培でも、慣行同様に中耕・培土を行います。

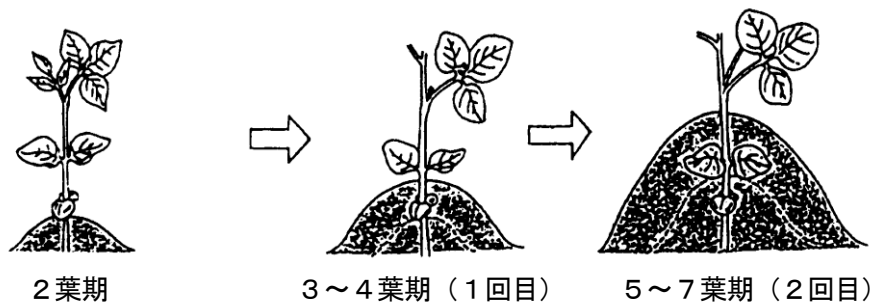


図2 培土の時期と高さ

(2) 追肥

根粒の活動は開花期以降低下するため、開花期以降は土壌からの窒素供給が重要となります。土壌からの窒素供給が充分でないと落莢が増加し、収量が低下します。

豆プロ一発等の大豆専用一発肥料を基肥に施肥しなかった場合、2回目（最終）培土前（標播で7月上～中旬頃）に肥効調節型肥料（標播で70日タイプ、晩播で40日タイプ）を窒素成分で6 kg/10a施用します（表1の体系1）。施用後はただちに中耕・培土を行い、肥料の混和した土を株元に寄せることで施肥効率が向上します。

また、気象条件等で培土が行えなかった場合、開花期から開花後10日頃までに尿素あるいは硫安を用いた追肥を行います（表1の体系2）。

表1 追肥の施肥量と時期

追肥 (kg/10a)				
窒素	体系1		体系2	
	肥料名	施用時期	肥料名	施用時期
6	LP70	5～7葉期	硫安・ 尿素	開花期
6	LP40			

(3) 雑草防除

大豆を播種してから約30日間雑草の発生を抑えるようにすれば、大豆の生育にともなう地表面への遮光により、雑草による大豆の生育への影響ほとんど除くことができますが、1回目の中耕・培土を行っても畦間・株間に残草が見られる場合には、茎葉処理剤を散布します。

大豆に登録のある茎葉処理剤には、特定の草種や科のものには効果が劣るものがあります。散布の際は草種を確認してから、効果の高い薬剤の散布を行って下さい。また、大豆に薬害を発生させるものもありますので、農薬のラベルを確認し、適正に使用して下さい。

(4) 害虫防除

葉を丸めて食害するウコンノメイガは、7月下旬～8月上旬頃にスミチオン乳剤等で防除を行いましょう。今年は気温が高くなり、害虫の発生が早くなる可能性がありますので、薬剤の処理時期を逸さないように、発生時期を注視しまししょう。

開花期～着莢期・子実肥大期には、大豆子実を食害するカメムシ類やマメシクイガ等が発生しますので、事前に薬剤を準備しておきましよう。

- ☆これから夏本番となりますので、熱中症に注意しまししょう
- ☆適宜休憩を挟んで、水分・塩分を補給しつつ作業を行いましょう
- ☆農薬は使用基準・使用方法に従い正しく使用しまししょう
- ☆自然災害対応及び所得安定のために、農業共済・収入保険に加入しまししょう

(参考) 茎葉処理剤

商品名	適用雑草	使用時期	使用量 (希釈水量)	使用方法	使用回数 の制限	備考
ナブ乳剤	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	雑草生育期 (イネ科雑草3~5葉期) 収穫30日前まで	150~200ml/10a (100~150L/10a)	雑草茎葉 散布又は 全面散布	1	広葉雑草及びカヤツリグサ科には効果が期待できない
ポルトフロアブル	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	雑草生育期 (イネ科雑草3~10葉期) 収穫30日前まで	200~300ml/10a (通常散布50~100L/10a) (少量散布25~50L/10a)	雑草茎葉 散布又は 全面散布	1	広葉雑草及びカヤツリグサ科には効果が期待できない
大豆バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	一年生雑草 (イネ科を除く)	だいずの2葉期~開花前 (雑草の生育初期~6葉期) 収穫45日前まで	100~150ml/10a (100L/10a)	雑草茎葉 散布又は 全面散布	1	アカザ科、ヒユ科、トウダイグサ科の雑草には効果が劣る。 大豆の葉に初期薬害(葉斑、色抜け、黄変など)が見られる。
アタックショット乳剤	一年生広葉雑草	本葉2葉期~開花前 (雑草生育期) 収穫45日前まで	30~50ml/10a (100L/10a)	雑草茎葉 散布又は 全面散布	1	タデ科、トウダイグサ科、ツユクサ科、キク科、マメ科、カヤツリグサ科には効果が劣る。 大豆の葉に初期薬害(褐変、縮葉など)を生じることがある。

※ナブ乳剤及びポルトフロアブルを使用する際は、イネ科作物(水稻やトウモロコシ)に飛散しないように注意してください。

※難防除雑草の帰化アサガオ類やアレチウリ、イヌホオズキ類にはアタックショット乳剤の処理が効果的です。